

# 地域づくり加速化事業の現場から考える 伴走支援を機能させる3つのポイント

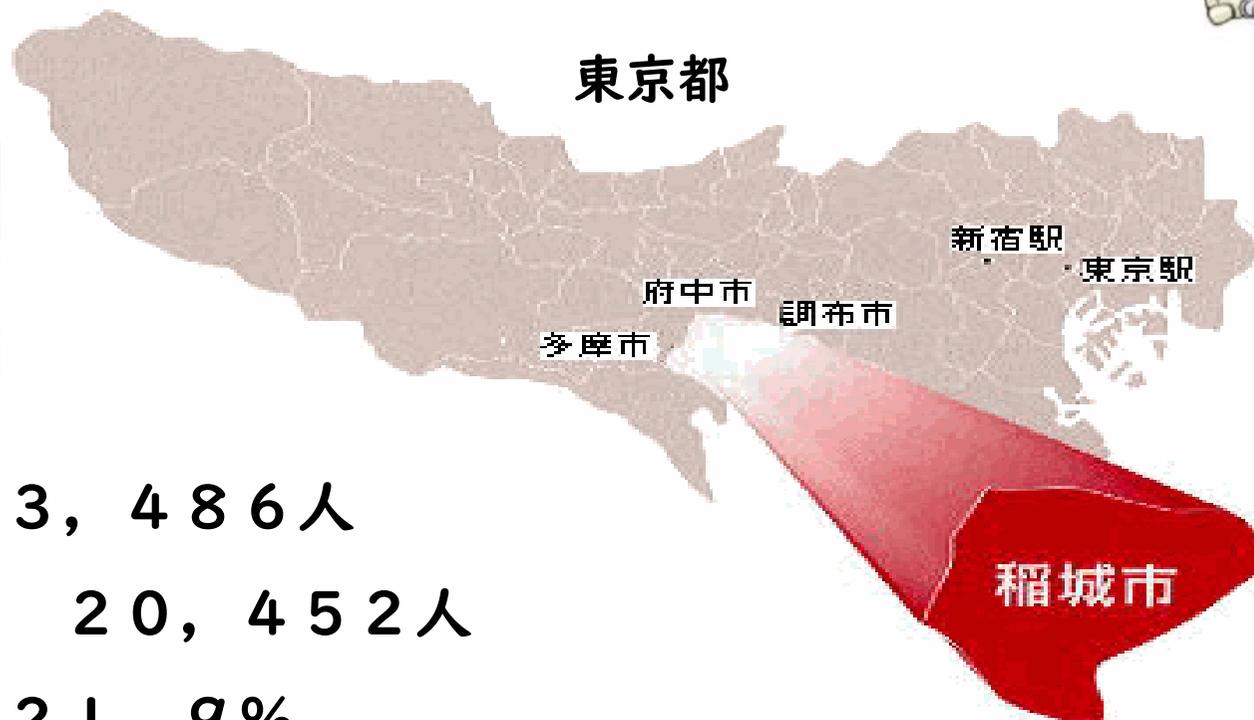
令和6年2月16日

稲城市福祉部高齡福祉課  
高齡福祉係長 荒井崇宏



ガンダム&amp;シャアザク

# 稲城市の紹介



特産品の梨とぶどう

人口 93,486人

高齢者人口 20,452人

高齢化率 21.9%

要介護認定者数 3,368人、 認定率 16.5%

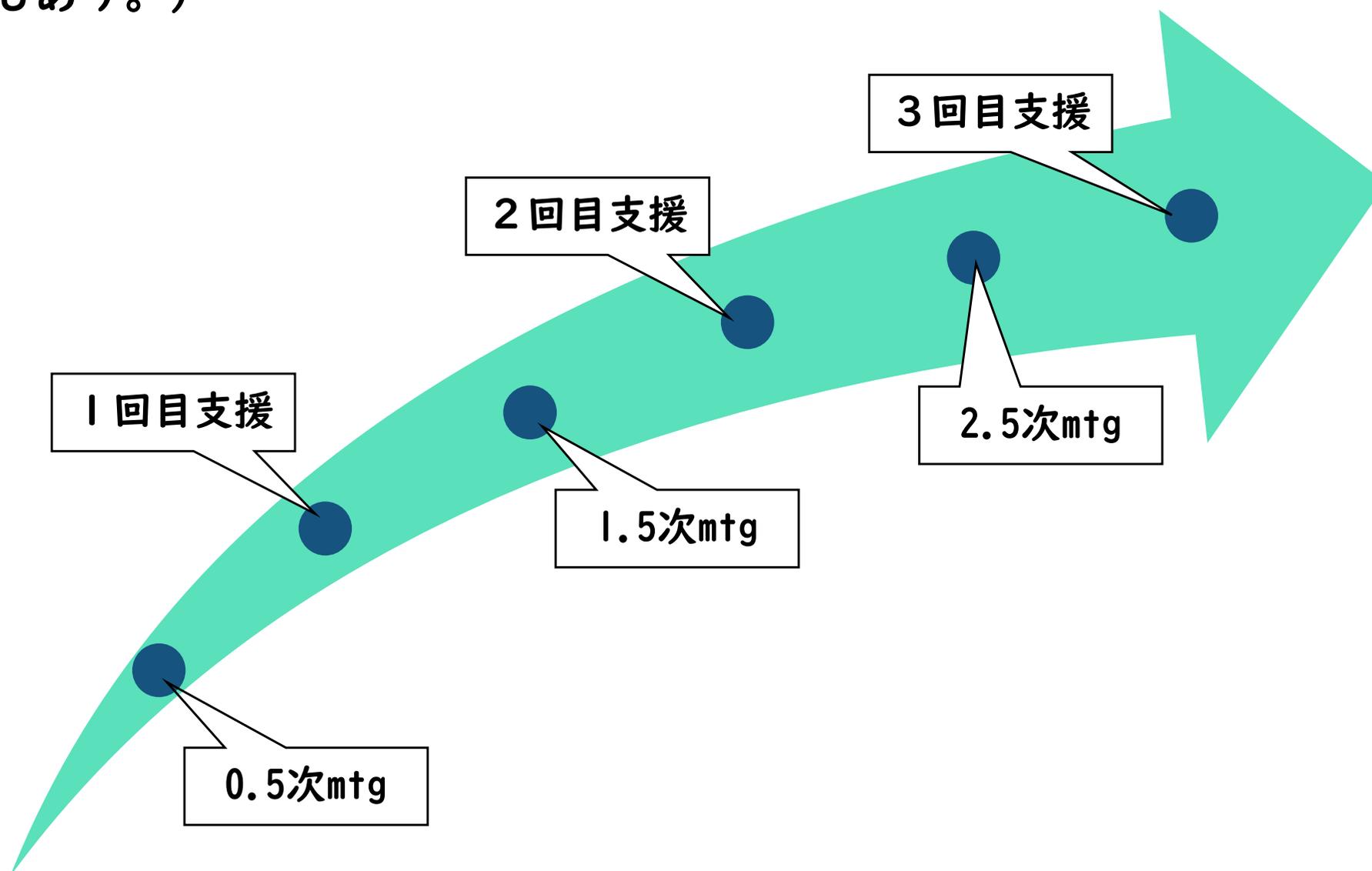
(令和5年4月1日現在)

- ★東京都心の新宿から西南に約25km、南多摩地区の東端に位置しています。
- ★面積は 17.97km<sup>2</sup>(東西、南北とも約5.3km)です。
- ★日常生活圏域4か所です。

# 1 伴走支援のゴール設定

## 地域づくり加速化事業の介入頻度

- 基本は0.5次mtgから3回目支援までの全6回。（状況によって2.75次mtg等を追加して回数が増えるケースもあり。）
- 支援は現地、mtgはオンラインが基本。（支援もオンラインになるケースもあり。）



## 6回(実質3回)の支援で何をすべきか?

- 6回の支援、多いと考えますか?ちょうどいいと考えますか?少ないと考えますか?
- 6回とはいえ、mtgは基本的には作戦会議。実質的に支援に入れるのは3回。



- あなたなら3回で何をゴールに設定しますか?
- 課題の抽出～目の前の課題の解決? (とても重要ですが。。。)

# 伴走支援のゴール(伴走支援はずっと続けられない)

## ゴール設定の整理

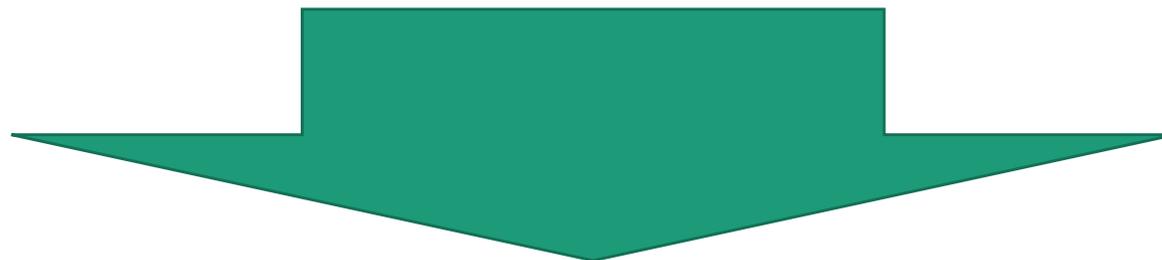
- 地域づくり加速化事業にあっては、実質3回(+オンラインmtg)の支援となっている。
- 伴走支援にあっては、目の前の課題を解決する、あるいは何が課題だかわからないため一緒に課題を抽出してその課題解決に向かう、というのは重要だが、それだけだと伴走が終わったときに自走できなくなる可能性がある。
- 伴走を通して、支援先自治体には課題の抽出の方法や課題解決策の検討手法等を学んで(身につけられればベストだけどそこまではなかなか難しいかも)もらい、伴走がなくなっても自分達でPDCAを回せるようになってもらう必要がある。
- 課題抽出や課題解決策をこちらで考えて教えることは(地域性や資源等色々考慮する必要はあるが)比較的簡単、しかしそれをすると伴走がなくなったら自走できない可能性が高い。
- なので、伴走支援のゴールとしてはお困りごと(課題や何が課題かわからない状態など)の解決は中間チェックポイントと捉え、最終的には自走できる状態に導くことをゴールに設定する必要がある。(その深度については支援先自治体の状況によって柔軟に設定することもポイント。チェックポイントといいつつ、ゴールと同時に課題解決にも至るケースもままあるけれど。)
- 伴走中は常にチェックポイントとゴールに至るためにはどうしたら良いか、支援先がそこに至るということはどういう状態になっていることか(あるべき姿)を意識しながら支援に入ることが重要。
- また、伴走支援後も自走するために、自走できる仕掛けや仕組みづくりまで持っていけるとベスト。(例: 定期的な議論の場の設定等の決めごとを作る、ロードマップの見直しのルール化等)



## 2 支援先自治体に共通する課題

## 支援先自治体に共通する課題（自治体あるある）

- 厚生労働省がやれといった事業はやらなければならないと信じ込んでしまう。
- 手段と目的が混同してしまう。
- 目の前の課題を解決しようという意識はもっているが、あるべき姿を考えてそれを実現するには今何をすべきかという意識は希薄。



だから、

- 支援先の意識変容
- 意識変容を支え、自走していけるためのコーチング
- そして理想の未来を実現するためのバックキャストिंगの意識  
が重要！！

## 支援先の意識変容

- 「ねばならない」という思い込みや変なプライドを捨ててもらう。
- 事業は手段。目的は住民福祉の向上（のはずですよ？）。
- 事業をやること自体が目的化していないか？（自戒も込めて。）



手段と目的を見誤らないための頭の体操（例題）

# ドラ○エ？的な世界を想像します！

魔王に人間たちが支配された世界

恐れおののく民衆



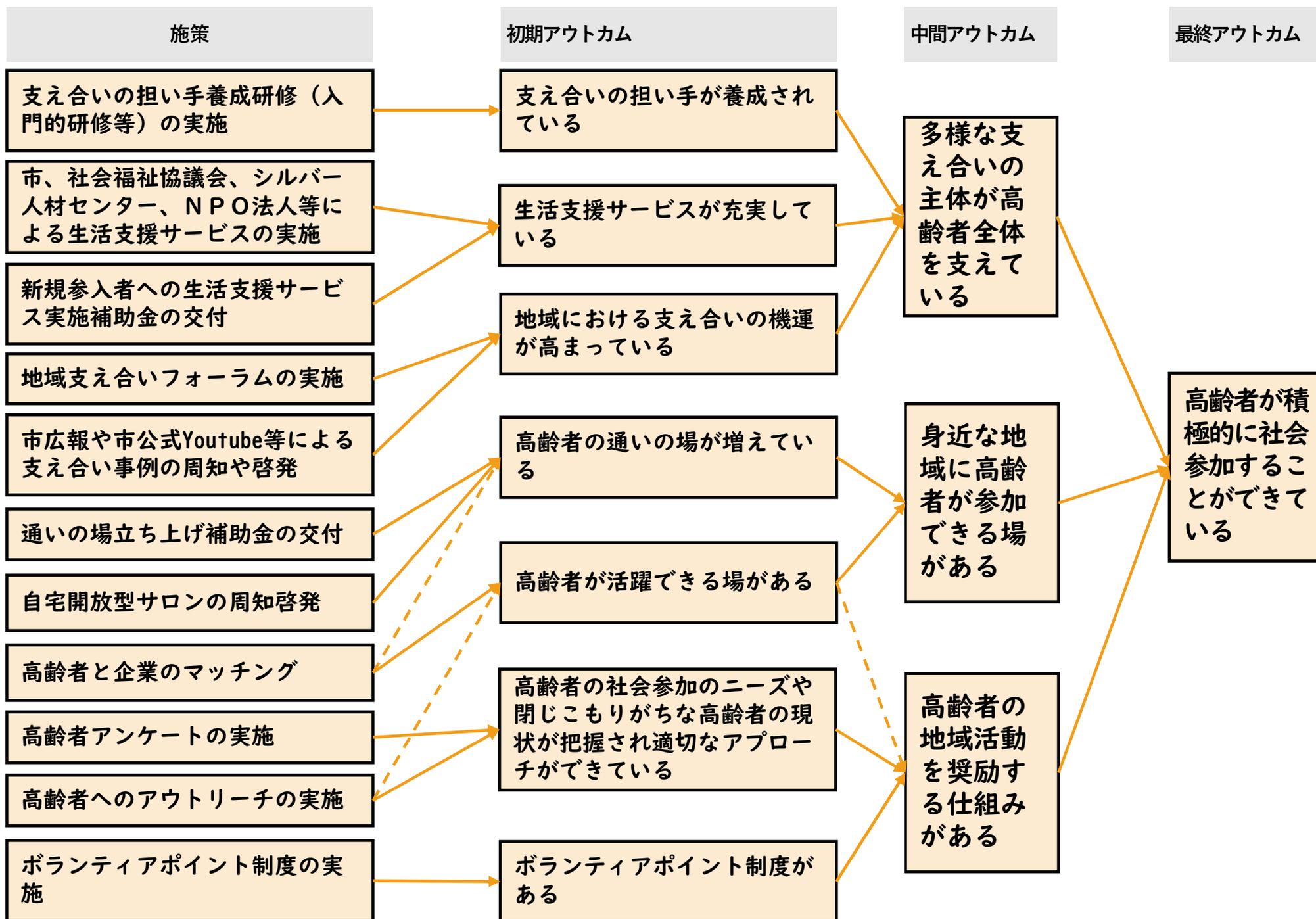
ヒーーーーっ!!!  
助けてくれーーーー!!!

そこで立ち上がった伝説の勇者



さて、勇者の目的ってなんでしょう？

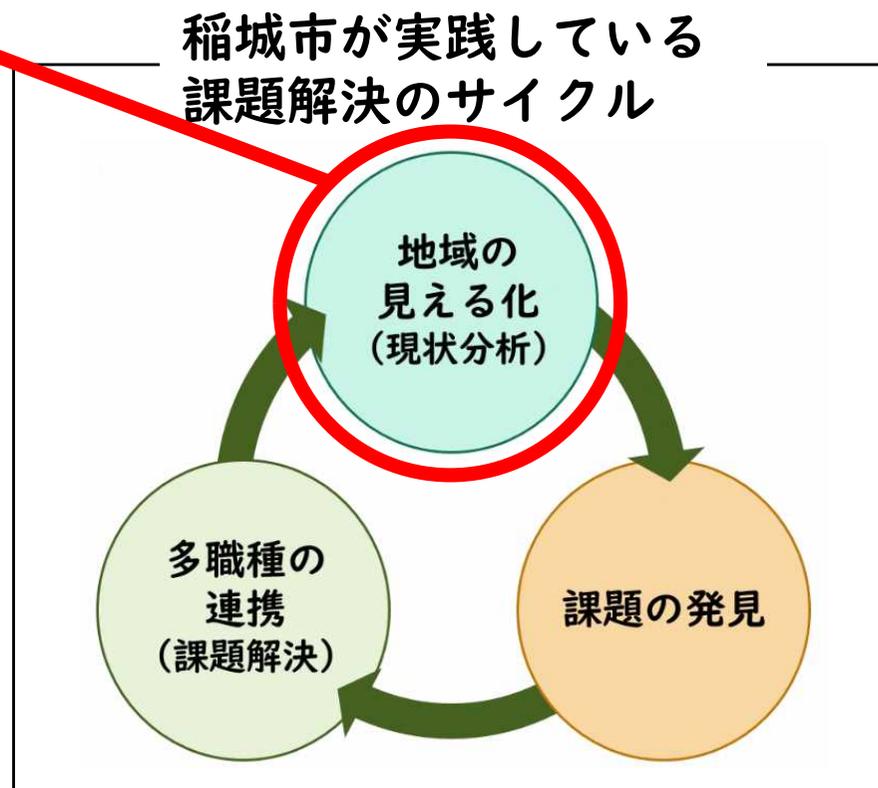
# 地域づくりのロジックモデル例（バックキャストिंगの意識）



### 3 府県に期待する役割

## 府県に期待する役割

- 保険者に一番近い組織として支援チームの中で支援先とハブになること。
- 府県内でのデータ比較による自治体の客観的な位置の把握⇨地域の見える化。（独特の文化なども踏まえながら比較・検証して教えてもらえると嬉しい。）



- 伴走支援が終わったあとも気軽な相談先として自治体のよきパートナーに。

# 4 まとめ

## 伴走支援を機能させる3つのポイント

### 意識変容 (+内発的動機付け)

- ・柔軟に物事を考えられるように支援。
- ・やりがいやメリット等を理解してもらい、取り組むことに対する意識変容を促す。(とても難しいけど。内発的動機付け)
- ・外発的動機はガソリンみたいなものなので、最初は動くが切れると止まる。内発的動機は永久機関みたいなものなので、自分で動き続けてくれる。

### コーチング

- ・ティーチングを求める保険者もいるが、絶対にNG。伴走が終わったあとは自走できなくなり転ぶ。
- ・自分たちで課題を解決していけるようになってもらうことが重要。そのために課題抽出や課題解決の手法やコツを身につけてもらう。
- ・自走できる仕掛けや仕組みを作るよう促す。人事異動があっても前進できるよう、属人化しないように。

### バックキャスト ティング

- ・多くの保険者はいまだにフォアキャスト的な仕事の仕方。(これまでの積み上げから課題を見つけてそれを解決。過去の延長線上にある未来。)
- ・バックキャストではあるべき姿(理想の未来)と現状とのギャップが課題となる。
- ・バックキャストの意識を持ったうえで、何を指すのかを考え、現状分析を行うことが重要。